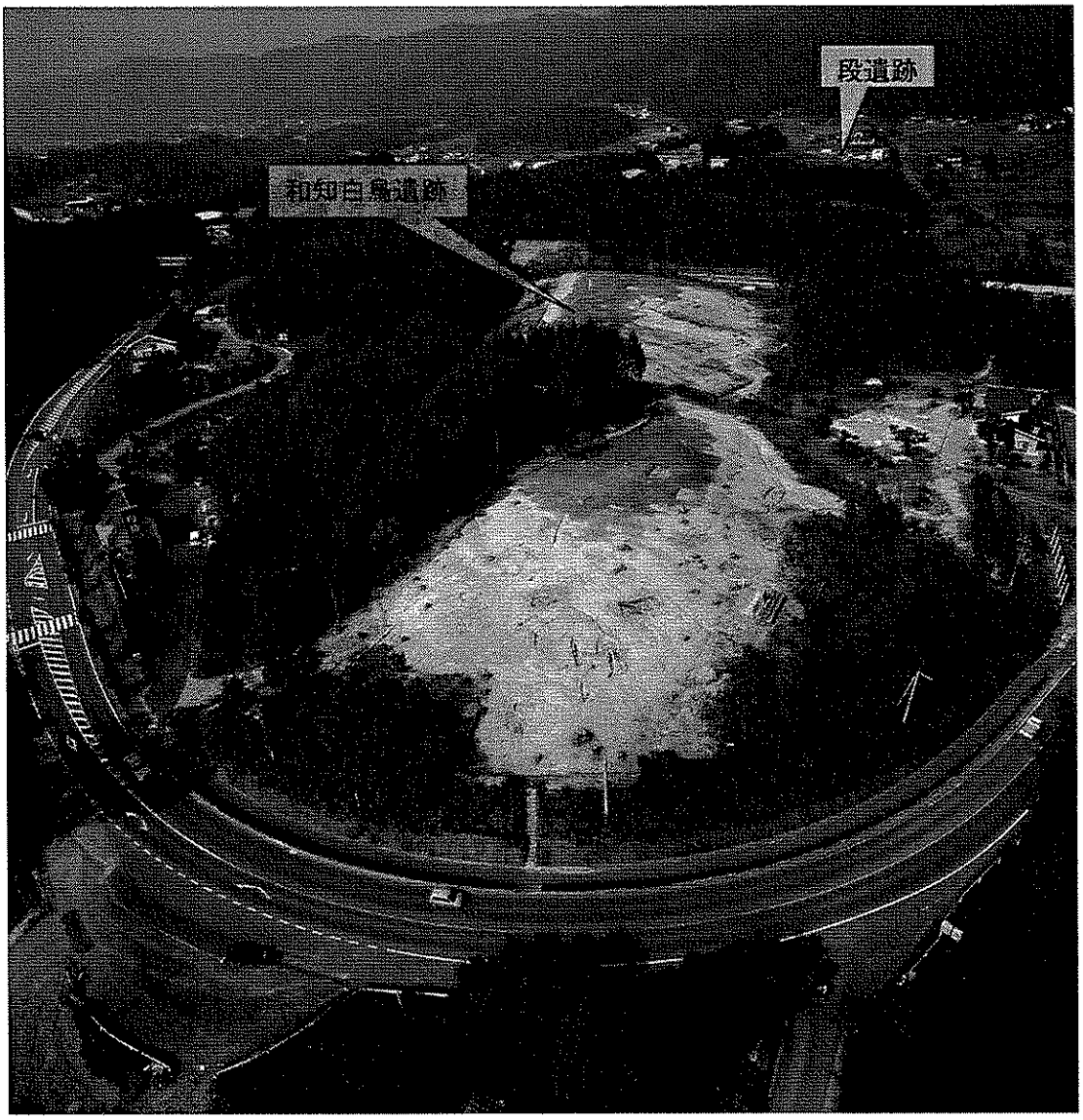
広島県三次市四拾貫・和知町所在

段（だん）・和知白鳥（わちしらとり）遺跡見学会資料



段遺跡・和知白鳥遺跡（手前）遠景

財団法人　広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室

三　次　市　教　育　委　員　会

年　　表　　○は三次市内の遺跡

時代		年代	項目
旧石器時代	前期	3万5千年前	石斧・ナイフ形石器など日本固有の旧石器文化成立
	中期		
	後期		●段遺跡・和知白鳥遺跡 ○下本谷遺跡・酒屋高塚古墳下層遺跡
縄文時代	草創期	1万3千年前	土器や弓矢の使用が始まる
	早期	8千年前	貝塚の形成 ○松ケ迫B地点遺跡・下本谷遺跡
	前期	6千年前	気候が温暖化・海面が上昇し漁撈が発達する
	中期	5千年前	東日本に大規模な集落ができる
	後期	4千年前	西日本の平野部に集落が進出 ○元国遺跡
	晩期	3千年前	一部で水稲耕作が始まる
弥生時代	前期	BC.300	本格的な水稲耕作が西日本に広がる ○高蜂遺跡・高平遺跡の墳墓
		BC.100	日本固有の銅鐸などの青銅器が鋳造される
	中期	57	倭の奴国王が中国(後漢)へ使いを送る ○大膳遺跡・塩町遺跡・四拾貫小原遺跡
		100	○三次盆地で四隅突出型墳丘墓がつくられる
	後期	239	倭国大乱 弥馬台国の卑弥呼が中国(魏)に使いを送る ○矢谷遺跡・旭堤下層遺跡
古墳時代	前期	250	前方後円墳が各地につくられる ○岩脇古墳
		400	鉄製武器・武具が量産化され、巨大古墳がつくられる
	中期	500	●段遺跡・和知白鳥遺跡 ○糸井大塚古墳・酒屋高塚古墳・大久保第５号古墳・浄楽寺・七ツ塚古墳群・善法寺古墳群・緑岩古墳
	後期		須恵器が普及し、横穴式古墳がつくられる ○若屋第9号古墳・大仙大平山第22号古墳・粟屋高塚古墳・寺側古墳・松ケ迫遺跡群

西暦	年号	項目
604		聖徳太子、十七条の憲法制定 ○四拾貫第16号古墳・天狗松第5号古墳
645	大化1	大化改新
663		白村江の戦い ○三谷寺建立(寺町廃寺)
672		壬申の乱
694		藤原京遷都 ○上山手廃寺・寺戸廃寺建立 ●和知白鳥第1～3号古墳
701	大宝1	大宝律令制定
710	和銅3	平城京遷都 ○下本谷遺跡・幸利遺跡・大当瓦窯遺跡
733	天平5	三次郡名初見(「出雲国風土記」)
752	天平勝宝4	東大寺大仏開眼供養
794	延暦13	平安京遷都

三次市史第3巻を一部改変

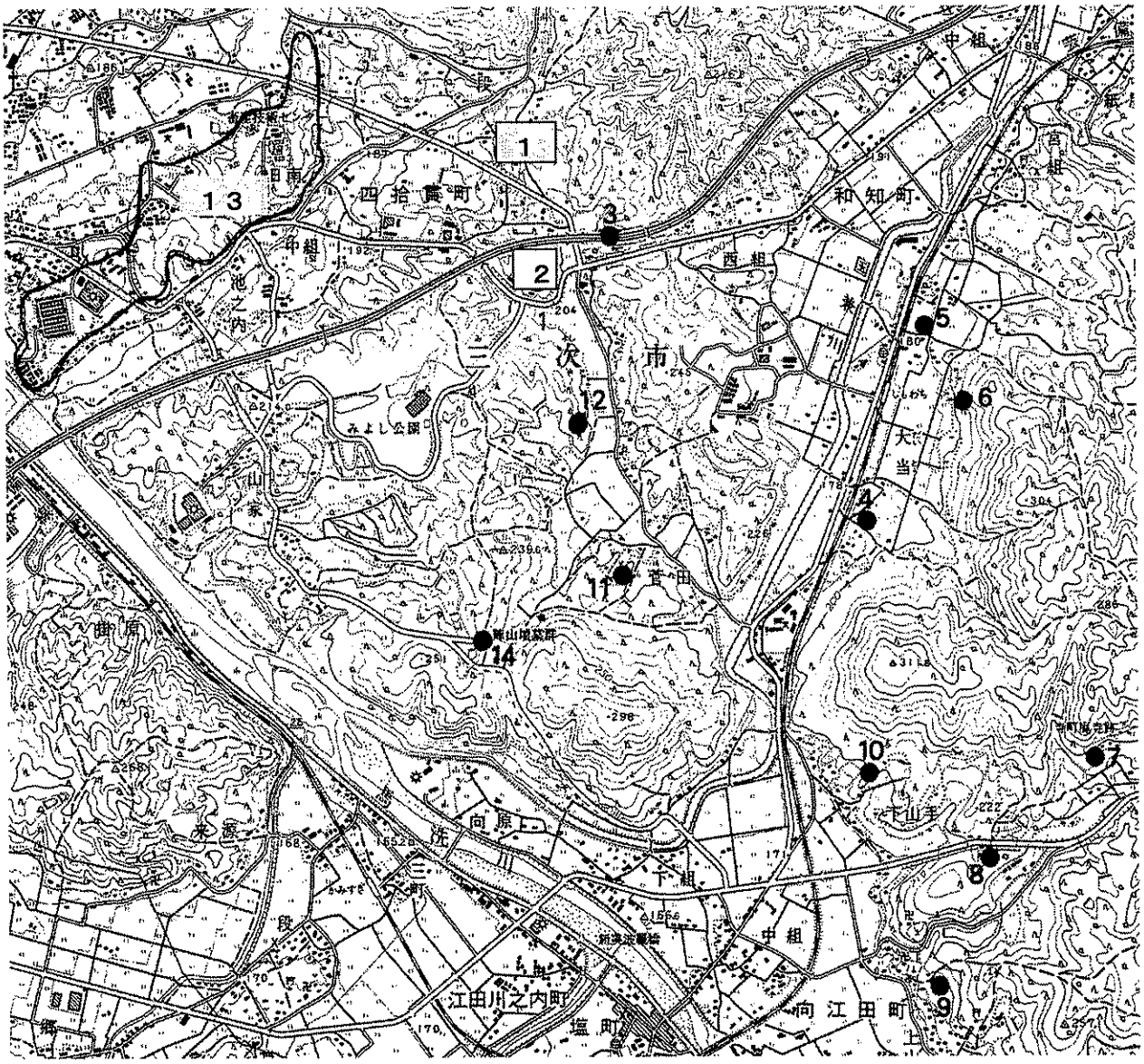
1　はじめに

財団法人広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室では，中国横断自動車道建設事業に伴って９月下旬から段遺跡および和知白鳥遺跡の発掘調査を行っています。

段遺跡・和知白鳥遺跡は，昨年度発掘調査を行い古墳時代の集落跡を確認しています。発掘中に旧石器時代の石器や石器製作時の剥片の出土した範囲が広くなったことから，今年度に調査を行うこととなりました。現在発掘調査中ではありますが，遺跡の概要があきらかになってきましたので現地で見学会を開催することにしました。

両遺跡は馬洗川と支流の国兼川に挟まれた最高所の標高が約 215～230m，水田からの比高は 10～30mの南東方向に延びる低丘陵上に立地しています。

遺跡のある四拾貫・和知地域は三次盆地を代表する遺跡の密集する地域の一つです。遺跡の周辺では，約 140 基の古墳が確認されている四拾貫古墳群，約 40 基の古墳で構成されている上四拾貫古墳群などがあります。集落遺跡では向江田中山遺跡・河原田２号遺跡・下の割遺跡が発掘調査されています。また，古代寺院である史跡寺町廃寺跡や上山手廃寺跡，大当瓦窯跡もこの地域にあります。



第１図　段遺跡・和知白鳥遺跡の位置と周辺の主な遺跡（1：25,000）

１段遺跡　２和知白鳥遺跡　３上四拾貫第１～10 号古墳　４河原田２号遺跡　５下の割遺跡　６大当瓦窯跡　７寺町廃寺跡　８下山手第４・５号古墳　９上山手廃寺跡　10 箱山第３～５号古墳　11 向江田中山遺跡　12 権現第１～３号古墳　13 四拾貫古墳群　14 陣山墳墓群

2　調査の概要

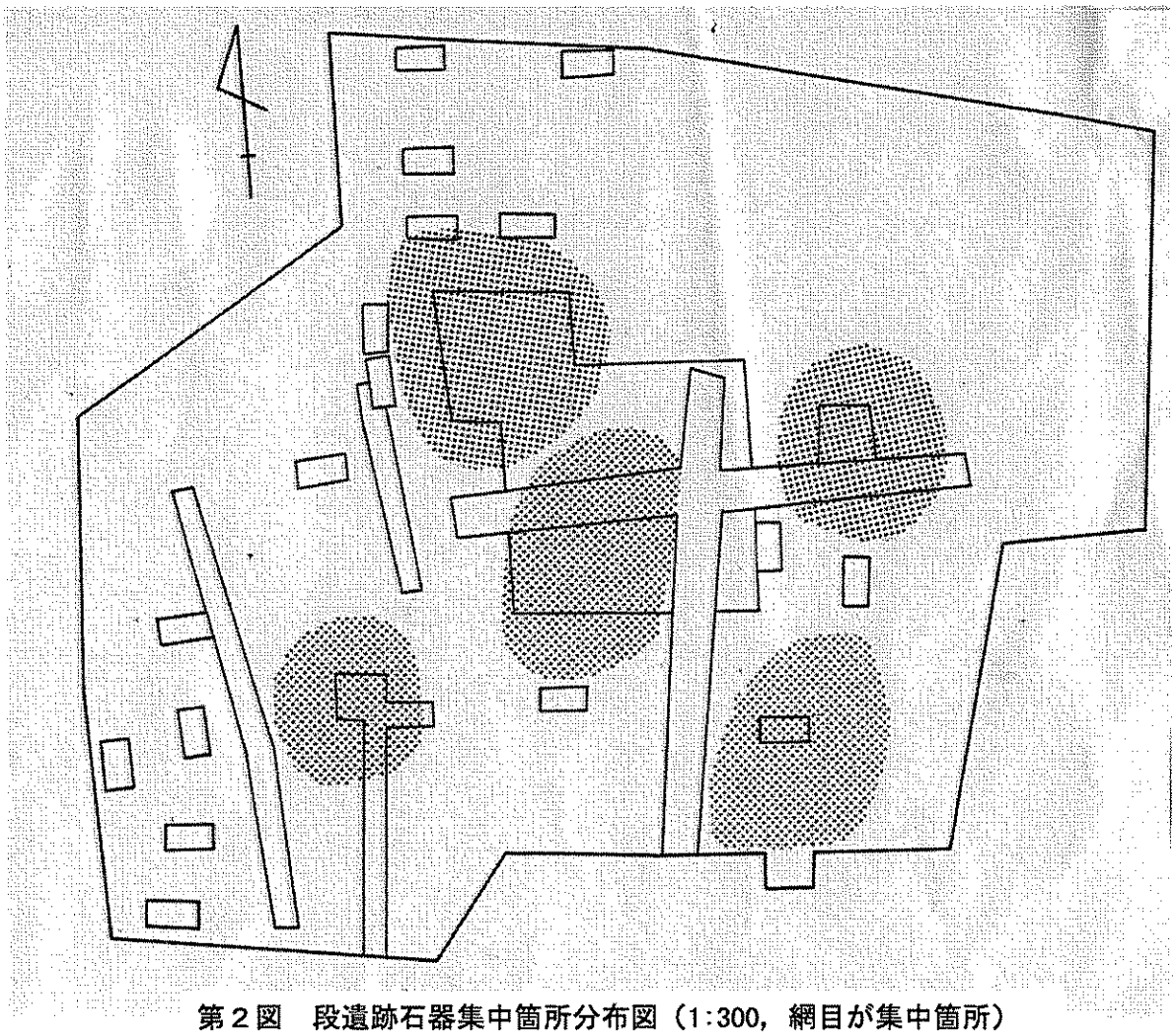
1）段遺跡

段遺跡は三次市街地から北東に約 5.2 km，標高 333mの山塊が北側に迫る平らな台地の上にあります。周りの水田と比べると約 10m ほど高いところにあり，東側と西側は谷になっています。調査をする前は東側が山林でこれを取り囲むように畑が広がっていました。

本年度の調査は昨年度に確認した旧石器時代の遺物について，その分布状態について面的に確認することを主としています。昨年度に予想された石器の分布状態から調査区平坦部約 1000 ㎡を調査しています。

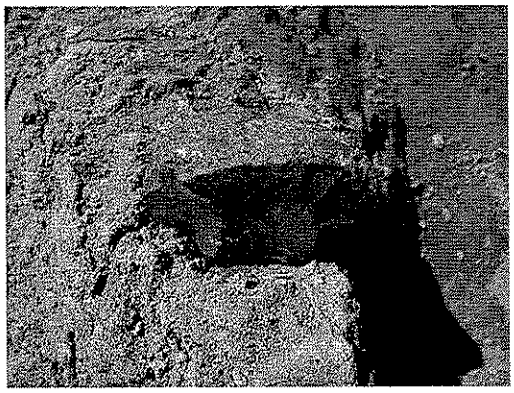
これまでの調査では前年度に石器の集中分布が予想できた場所以外に新たに一カ所石器の集中分布箇所を発見しました。ここでは赤いチャート製？の石核（石器を造る石），その石核から剥いだ剥片，水晶？・黒曜石の剥片，また加工痕のある石器などが出土しています。

これらの石器が発見した場所の土を分析したところ，今から約２万２～５千年前に列島を覆うように降り積もったＡＴと呼ばれる広域火山灰が真上にあることから，少なくともＡＴが降り積もる以前のものであったことが分かりました。今回の調査は実態の判然としないＡＴ降下以前の石器の様相を知る上で貴重な資料を提供したといえます。



第２図　段遺跡石器集中箇所分布図（1:300，網目が集中箇所）

▲　段遺跡石器集中箇所調査風景



▲石核（チャート）

▲　剥片（チャート）

▲　剥片（水晶？）

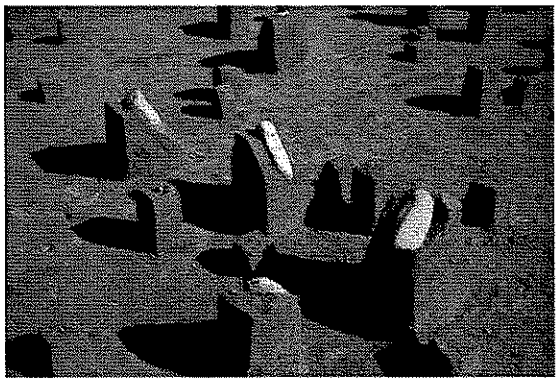
▲　加工痕のある剥片（流紋岩）

２）和知白鳥遺跡（三次市和知町・四拾貫町）

昨年度の発掘調査成果から，調査面積 960 ㎡の内２個所の礫群が存在していることを想定し調査を進めていましたが，現在までに，予想を超えた５か所の石の集中箇所を確認しています。その内，最も南に位置する石の集中箇所では，石器を制作する際に飛び散った剥片がまとまって出土していることと，ハンマーストーン（石槌）が完形１点，割れた状態で３点出土していることから石器を作っていた場所と考えられます。ほかの４個所も自然石を利用したハンマーストーンや石核，水晶の剥片が出土しています。これまでの調査では，石を加工した石器の出土はありませんが，昨年度の調査では石器を制作する際にできる縦長の剥片を利用した石器（ナイフとして使用）と石器を作る原材料（石核・せっかく）が出土していることから，石器が出土する可能性もあります。

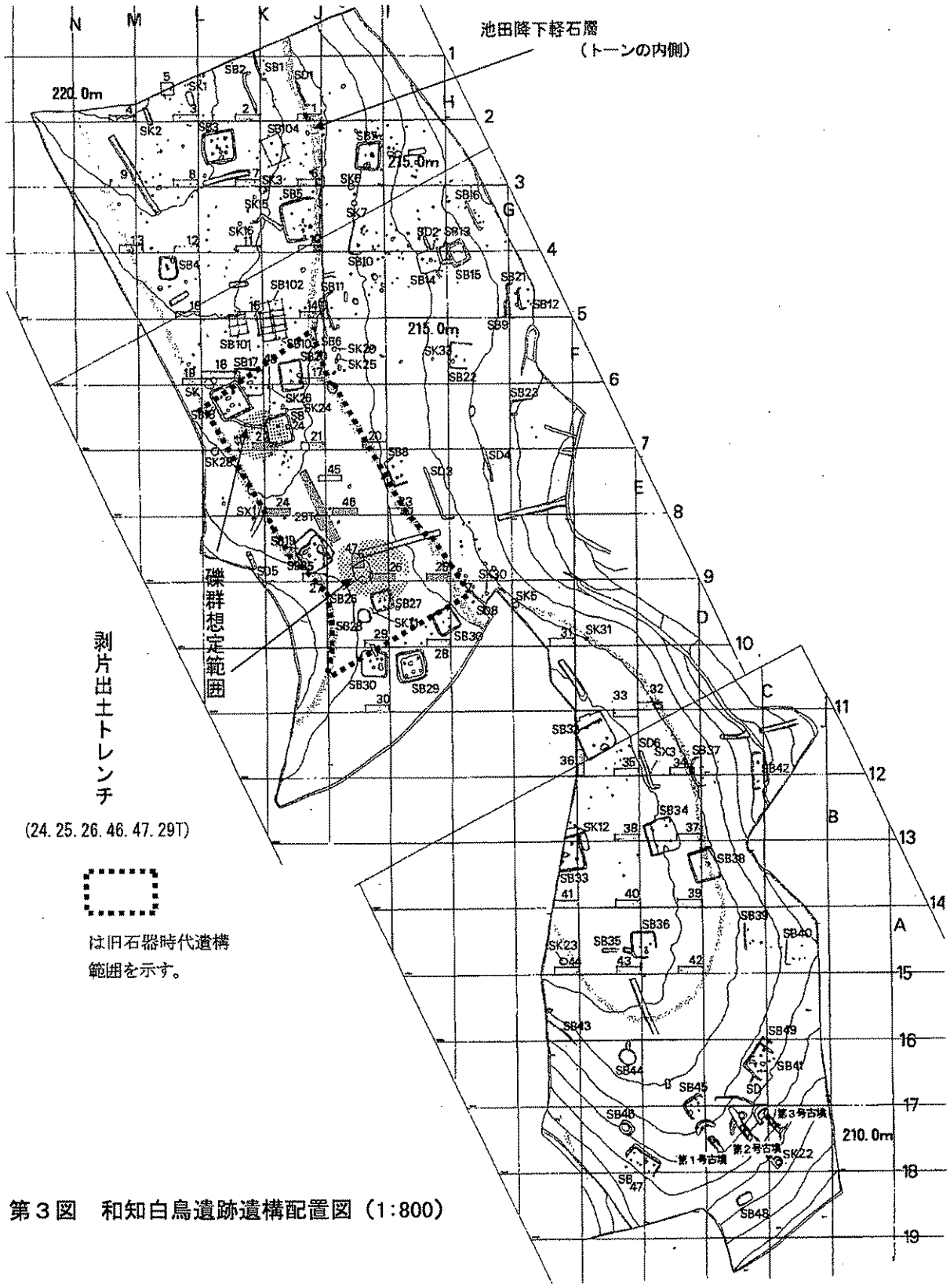
今回の調査で出土しているハンマーストーンや剥片は，ＡＴと呼ばれる火山灰層から下の層から出土していることから，ＡＴの年代（約２万２～５千年前）よりも古くなる可能性が考えられます。

▲　調査区最南端に位置する集石



▲　ハンマーストーン出土状況

▲　石器製作途中の石英



第３図　和知白鳥遺跡遺構配置図（1:800）

3　おわりに

現在までの調査では，石器を作る時の剥片や加工痕跡のみられる石材は出土した層位から後期旧石器時代でも約２万２～５千年前より古くなる可能性があります。この年代より古いと日本で最も古い遺跡のグループに入ることになります。これまで明確に石器と思われる遺物は出土していませんが，段遺跡・和知白鳥遺跡の調査は 11 月下旬まで行う予定で進めていますので，これからの調査によって明確な加工痕跡のみられる石器が出土することも考えられます。

メモ

姶良丹沢火山灰（あいらたんざわかざんばい）

約２万 2～5 千年前に姶良カルデラ（鹿児島湾）の大噴火で噴出した大量の火山灰。この大噴火で噴出した火砕流が陸上を流れて堆積したものが入戸火砕流で、「シラス」の通称でよく知られている。同時に噴出した火山灰のうち、空中高く吹き上げられ、偏西風に乗って東方へ飛んでから地上に降下したものが姶良丹沢火山灰（ＡＴ）となった。

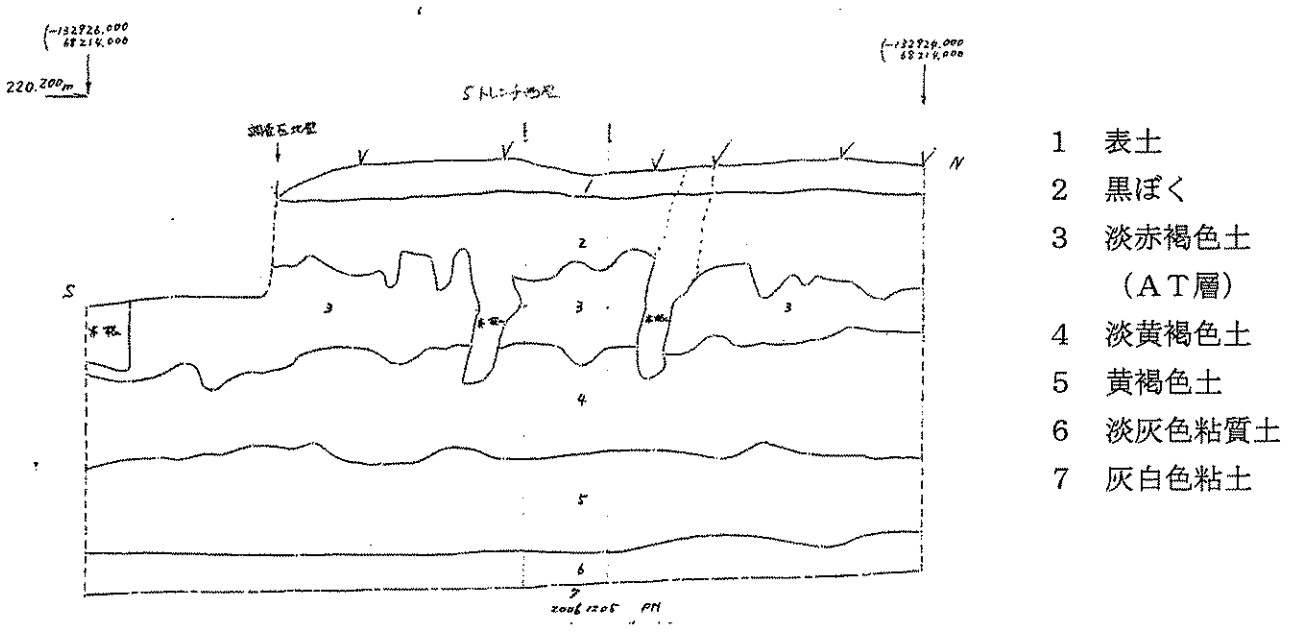
名称の由来は、当初は丹沢山地に分布していることから丹沢軽石（丹沢パミス）と名付けられ、その後 1970 年代に姶良カルデラが起源であることがわかり姶良丹沢火山灰と呼ばれるようになった。

姶良丹沢火山灰は、九州から関東地方まで、直径 2000 キロにおよぶ卵形の地域に分布する。地層の年代決定における鍵層の一つになっている。専門的には姶良 Tn 火山灰層という。記号はＡＴ。

火山灰に覆われた面積は約４百万 km^2、火砕流堆積物を除いた火山灰の全体積は約 $150km^3$ にもなる。この地層を境にして植物の種類が大きく変化しており、寒冷化の原因になったとも考えられている。

町田洋、新井房夫『新編　火山灰アトラス － 日本列島とその周辺』財団法人東京大学出版会、2003 年

出典：フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』



第４図　和知白鳥遺跡基本土層層序